

関係者評価 評価報告書

対象:令和2年度

令和3年6月実施

名古屋総合美容専門学校

《目的》

- ・本校が申告した自己評価結果について、様々な立場や知見者より評価を行うことで、自己評価結果の客観性・透明性を高める
- ・幅広い専修学校関係者との連携協力や理解促進によって学校運営の改善を図る

《役割》

専門的且つ公平な立場から本校の評価を行う

《評価方法》

令和2年度に関する事業報告/財務状況/自己評価結果等の報告において、下記の評価基準に沿って関係者評価 調査書にて各項目の評価及び運営改善のための専門的助なご意見や改善策等の回答をお願い致します。

◎評価基準

- ・自己評価結果の内容が適切かどうか
- ・自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

《結果の運用方法》

本校公式HP(sobi.ac.jp/ ※現在、情報公開ページは準備中となります)にて関係者委員の所属先及び氏名の個人情報を含めた関係者評価結果の情報開示を行い、上記の目的のほか高等教育機関等の補助金制度(日本学生支援機構 給付型奨学金)の対象校申請等の生徒への支援活動に役立てる為に使用します。

また結果の開示は、関係者委員全体の意見を集計したかたちで作成しますので、各意見がどなたによるものかはわからない形で集計したものを掲載致します。何卒公平な評価をお願い致します。

(1)教育理念・目標

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	5	4	3	2
B 学校における教育理念は正しく運営できているか	5	4	3	2	1
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	5	4	3	2	1
D 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	5	4	3	2	1
E 学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

A・B: 学校の教育理念について、学校長に質問したところ、教育活動のモットー、理想を実行するために行っていること、今後の課題について、即座に回答が得られたので、学校創設時からの精神が、歴代の学校長に着実に受け継がれていると感じられる。
また、同様の質問を職員にヒアリングしたところ、上層部の意思決定が教職員に到達される歳は、決定内容のみ伝えるのではなく、その活動を行うことで実現できる目標や具体的な根拠を添えて行われるとのことであった。
学校長と教職員間でビジョンがきちんと共有できている証左である。

A～D: 生徒に示している目標や理念、将来を見据えて様々な経験の機会を与えていることはとても素晴らしい。

業界や情勢に対する対応は非常に柔軟だが、教育理念など大きな指針は示しているものの各場面や機会において学校側の意思や目的が明確化できていないことが非常にもったいないように思うので、日常的に生徒へ細かく学校側の目的を伝えるとより運営の向上が望めると思う。

C・E: 60年以上かけて培われてきた教育のノウハウだけでなく、卒業生や外部業者、同業他校との情報交換を通じて、法令やトレンドが日々刻々と激変する美容業界についての情報収集が、常に幅広く行われており、適切に方向づけられていると思われる。

C,D,E: この時代の中でおかれている学校の状況は、コロナ禍もありとても大変かと感じるが、日々の学生との距離の近さから理念を含め学生を育む想いの強さを、常々感じる。コロナ禍もあり情報の発信が困難な状況だが、この取り組みをより多くの業界を目指すお子さんを持つ保護者に更に周知徹底されることを願いたい。

(2) 学校運営

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	5	4	3	2
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	5	4	3	2	1
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	5	4	3	2	1
D 人事、給与に関する規定等は整備されているか	5	4	3	2	1
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	5	4	3	2	1
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	5	4	3	2	1
G 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	5	4	3	2	1
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

D:就業規則・退職金規定等、人事労務に関する規定は、外部社会保険労務士によって作成されている。

前年の指摘事項であった、雇入条件通知書・雇入条件変更通知書(辞令)が未作成であった件が改善された。

また、産前産後休業・育児休業の取得実績件数が増加した件、労働時間の見直しによる残業時間の大幅削減の取り組みも評価できる。

労働時間の削減により、教職員の心身の健康とモチベーション維持による離職防止だけでなく、無駄な人件費抑制にもつながるので、

是非今後の労働環境改善の目標達成と維持に努めてもらいたい。

G: 前年と比較し、飛躍的に公式HPやSNS等オンラインを活用して、学校の取り組み・活動を発信することが当たり前になったことで、情報発信の内容や量、頻度が学校の見られ方→学生数に直結すると考えている。また、校内の活動だけでなく、SNS運用が卒業生や在校生と学校とのつながりを持つ貴重な機会にもつながっていることは、評価に値する。

素晴らしい思想や取り組みが多いので、今後さらに有効に情報発信や活用を続けていくことで、より良い影響をもたらすと期待している。

F:コンプライアンスに対する意識はサロン様とのやり取り、学生・保護者とのやり取りを伺っていても守られていると感じる。

(3)教育活動

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	5	4	3	2
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	5	4	3	2	1
C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	5	4	3	2	1
D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	5	4	3	2	1
E 関連分野における実践的な職業教育(産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	5	4	3	2	1
F 授業評価の実施・評価体制はあるか	5	4	3	2	1
G 職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	5	4	3	2	1
H 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確化になっているか	5	4	3	2	1
I 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体型的な位置づけはあるか	5	4	3	2	1
J 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5	4	3	2	1
K 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	5	4	3	2	1
L 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	5	4	3	2	1
M 職員の能力開発のための研修等が行われているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

D: 前年も評価した、カンコーマナボネクト社の非認知能力を高める教育プログラム実施の継続が評価できる。

本来の教育プログラム導入の目的である、キャリアプラン設計機会の増加だけでなく、「自身の感情を適切にコントロールできるようになる」

「他者との距離感を適切に保ち、協力し合うことを学ぶ」という要素が、思春期で多感な時期の生徒のメンタルケアにも繋がっている。

コロナ禍収束後の不安な社会情勢・景気動向、より一層複雑化していく社会を生き抜くためにも今後も継続を期待したい。

また、株式会社セイファートによる就職活動前の指導セミナー等、生徒の卒業後をより具体的に見据えた内容へ大きくカリキュラムが変更された点が素晴らしい。

E: この項目こそ校内で対面授業を実施するだけでなく、今後、オンラインをうまく活用することで、より多くのジャンルや美容の現場を知る機会が得られる可能性を秘めていると思う。生徒の希望就職先や職種が多様化している中で今後の動向に期待したい。

DE: あらゆる分野の教育現場で、離職の軽減を視野に入れキャリアデザインに注力している昨今。

現世代の若者が育まれてきた環境の変化によってか、「はたらく」ことに対する覚悟が備わっていない状況が目につく。

就職後の定着を安定化させるためにも「はたらく」ことの意味や意義を知る機会を学生に提供していくことが、更に教育現場で求められると感じる。

F: 全ての授業においてその授業の目的や必要性をその先にある明確な目標をより具体的なステップまでしっかりと説明できると生徒側からは、自分が受けている授業の重要性について大きく認識が変わる可能性があると思う。各講師において授業の進め方や伝え方が様々になっていると思うので、生徒に対して何が有効的に響きやすいのか、他の講師はどういった説明をしているかを学校側が把握するだけでなく、各講師でも授業評価を通して意見交換できれば、授業の内容の充実度及び生徒の理解ややる気の向上にも大きく影響をもたらすと思うので、実践してもらいたい。

I: コロナ禍が収束した後も、希望する者に対してはオンライン受講を許可する制度があると望ましい。

令和3年文部科学省「遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証成果報告会」にも提言があるように、

学ぶ意思があるものの通学が難しい生徒(家庭の都合・いじめ・不登校・病気療養等)に対して、オンライン授業をもって単位認定するなど、

外部環境のせいで学ぶ機会が損なわれる生徒の取りこぼしを防ぐ制度づくりが今後必要である。

実習授業の対面授業と座学授業のオンライン授業の両方の良さを使いこなしカリキュラムが作成できるとより一層望ましいと思われる。

J: 現在、年齢・性別・性的志向・人種・民族など、多様性を重視する社会へ着実に変革しつつある。

自分と異なる価値観を持つ他者への配慮が今後はより一層求められる。

以前はあまり意識されなかったものが重要視されるようになり、生徒に指導を行う以前に、教職員自身の意識をアップデートする必要がある。

今後は研修などを通じて、教職員へ積極的に啓蒙していくことが望ましい。

(4) 学修成果

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 就職率の向上が図られているか	5	4	3	2
B 資格取得率の向上が図られているか	5	4	3	2	1
C 退学率の低減が図られているか	5	4	3	2	1
D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5	4	3	2	1
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

A: 美容師という仕事への大変さを理解させながらも、常に高い就職率を維持されていることが素晴らしい。

B: 資格取得がすべてではないが、資格取得に向き合うことは学生たちの今後にとって大きな経験になるので、学生にこれらの理解を得る機会を増加させ、より興味関心を高めることが大切と考える。

B: 前年は通信課程の国家試験の合格率が他校と比較して合格率がやや悪い点を指摘したが、今年度は改善された点を評価したい。

ただ、まだ全国平均を下回るケースも見受けられることが課題である。

国家試験合格率が、卒業生の進路だけでなく、生徒募集にダイレクトに影響があるため、合格率改善が急務である。

国家試験科目担当教員1名の退職により、今後は属人業務ではなく、さらに学校一丸となった試験対策体制構築に期待したい。

C: コロナ禍においても、退学・授業料滞納による除籍は減少傾向であった。

授業料滞納者へこまめな請求、経済的な事情を抱えた生徒へ奨学金や補助金等のアナウンス、不登校がちな生徒へコースの移籍を促すなど、

事務局や教職員の生徒指導による、きめ細やかなフォローとたゆまぬ努力の結果、大幅に退学率が改善されてきている。

また、学校全体で生徒のメンタルケアや保護者への対応を柔軟に行っていることも素晴らしい。

今後は、不登校がちな生徒への提案としてオンライン授業の提案も技術上可能になると思われるので、より一層のフォローを期待したい。

D: 特に卒業生のその後の進捗や、活躍は把握が難しいが、御校ならではの生徒とのつながりやSNS等を駆使して、卒業後の活躍を把握するだけでなく、在校生に示し、自身らの将来を考えさせるような機会を与えたことは、非常に素晴らしく、そのような機会は在校生のモチベーションにもつながるため、引き続きの注力を期待。

E: 資格取得だけでなく、NCS授業の導入やサロン講習等、自身を見つめ直し、卒業後の将来像についてより具体的にどのように活躍していくのかを考える機会またはその考え方について学ぶ機会が以前よりも増加していると思う。

C・E: 新しい取り組みも伺え、非常に素晴らしいが、より効果的に生徒へよい影響を与えられるよう、それぞれの取り組みがブラッシュアップされることを期待する。

(5) 学生支援

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	5	4	3	2
B 学生相談に関する体制は整備されているか	5	4	3	2	1
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	5	4	3	2	1
D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	4	3	2	1
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか	5	4	3	2	1
F 学生の学内生活環境への支援は行われているか	5	4	3	2	1
G 保護者と適切に連携しているか	5	4	3	2	1
H 卒業生への支援体制はあるか	5	4	3	2	1
D 在校生への留学支援体制はあるか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

AB: 各課程において先生との距離が近く、学生が相談しやすい環境だと感じる。サロンの状況は年々様変わりしているので、先生方がこれらを得ることは日常の業務と併せるとどれだけ大変か容易に想像できることから、素晴らしいサポート体制だと感じる。

C: 各種補助制度への適応や授業料の納入期限の緩和等が学費に関するサポート体制が整備されており、経済的な理由により学業継続が難しい生徒への対応も手厚く行われており、多忙の中での先生方の努力を痛感。

D: 多感な年ごろの学生が多いため、からだだけでなく、心のサポートができる環境を整備することは、今後の学生にとって重要と考えます。

G: コロナ禍で大変な中、各保護者と密に連絡をとり、誤解のないように進めてこられた先生方の努力が素晴らしいと感じる。この行いが在校生にとって学生生活における充実度や質の向上へつながっていると感じる。

A・H: 前年の評価時、就職後被雇用者として把握しておくべき労働法・税金・社会保険・社会保障の基礎知識に関する指導を行うべき、と指摘したが、直接指導ではなく、リーフレット配布にとどまっている点が、今後の課題である。

厚生労働省「平成30年 美容業の実態と経営改善の方策(抄)」によると、美容業は低待遇な給与や常習化する長時間労働など、他業種と比較して労働環境の劣悪さが問題となっている。

就職後の雇用契約にあたり、双方の知識不足による労使間のトラブルも散見されている。

外部講師を招聘したり、厚生労働省作成の『働くこと』と『労働法』～大学・短大・高専・専門学校生等に教えるための手引き～等の

教材を活用するなど、労働法や社会保障に関する知識を習得し、未然にトラブルを回避できるよう、今後積極的に指導していくことが必要である。

(6)教育環境

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	4	3	2
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	5	4	3	2	1
C 防災に対する体制は整備されているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

A: 設備は、文部科学省の定める施設設備基準を満たしており、問題なく整備されている。

ただし、建物が築30年以上経過し、建物設備の老朽化が進んでいる。

将来の大規模修繕に備えるべく、早期の資金繰り改善、修繕費捻出のための積立等財政の健全化を目指すことが望ましい。

今年度においては、事務所や校長室にアクリルパネルを設置したり、学校入り口や各教室等へ殺菌用アルコールを配備したり、

登校時に検温を実習したり等、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策をしっかりと行い、生徒たちが無事に国家試験に望み、

卒業することができた努力は称賛に値する。この1年は本当に新体制の必要性に迫られ、ご苦勞が多くおありだったと感じる。

今後もまだまだ先が見えず、更なるシステム環境の強化を強いられることもあるかと感じるが、しっかりと対応できると確信している。

B: インターンシップが行われていない点を去年指摘したが、令和3年度よりインターンシップ実施の目処がついた点を評価したい。

インターンシップを通じて、今まで学んだ知識や経験が、実際の現場ではどのように活用されるのか体験し、自分の職能適正や将来仕事で実現したいこと、卒業までにどのような学校生活を送るべきかの課題を得るヒント、モチベーションアップにも繋がる。

また海外研修については、情報や知識を吸収できる機会だけでも、学生の引き出しが増えるので大きなプラスになるはず。

C: 避難訓練などを実践につなげる意識を持たずすることは困難かと思うが、実施した訓練をいかせる心構えを学生に周知できるとより良いと感じる。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 学生募集活動は、適正に行われているか	5	4	3	2
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	4	3	2	1
C 学納金は妥当なものとなっているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

A: 数年前の生徒募集は、応募者の成果に対して、広告宣伝費の支出が過大であった。費用対効果の薄い広告の見直しを行い、広告費用削減と、オープンスクールや中高の進路指導室へのアプローチなどで一定の効果을あげている。

コロナ禍においてOSやガイダンスが開催できない事が多い中、オンラインでの学校見学などの実施に努めていることは素晴らしいが、一方でオンラインを通じた広報活動という新しい試みにおいてそれが、どんなものか、どれだけのことが伝えられるかといったような具体的なイメージの示唆はまだ不足しているように感じる。オンライン授業のみだけでなく、広報にもオンラインはより有効的に活用できると思うので、幅広い選択肢を持って学校の情報を得られるメリットについて入学希望者に対し、事前に具体的なイメージを伝えられるように想定し、公式HPやSNSをうまく活用しながら、準備をすすめられるとよいと思った。

C: 学納金の価格設定は、市内の他の理美容系専門学校・専修学校と比較してかなり安価である。

学びの意思があるにも関わらず、経済的な事情で進学が難しい生徒に対して、学習機会の場の提供につながっている。

学納金の価格設定による社会的意義は、非常に高く、評価に値する。

ただ、今後は経営の安定化を目指す観点から、消費税を適切に転嫁し、今後の経営状況や景気動向、消費者物価指数の変動も考慮して、学納金の数字そのものにとらわれず、適宜柔軟に学納金の価格設定の見直しを行うべきである。

(8)財務

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	4	3	2
B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	4	3	2	1
C 財務について会計監査が適正に行われているか	5	4	3	2	1
D 財務情報公開の体制設備はできているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

A: 令和2年度は、数年ぶりに経常収支差額が黒字(+1,442千円)であった点は評価できる。

ただし、これは財務状況改善によるものでなく、行事・生徒募集ガイダンス等が中止になったことで支出が抑えられたことに過ぎない。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う、相次ぐオープンスクールやガイダンスの中止により、入学生徒数に大きな打撃を受けている。

これまでの運営において、資金繰りも数年前よりも著しく悪化し、財務状況が改善しているとは言い難いものである。

広告費支出の大幅削減など評価できる点もあるが、経費削減には限界があり、収入増加の根本的な解決が必要である。

外部広告業者に任せきりではない、費用対効果の高い生徒募集を積極的に行い、生徒数を回復・増加させることが急務である。

また、授業料に比べて価格調整がしやすい物販の売価を見直すべきである。

売価は原価だけでなく、光熱費や人件費、手数料等の販管費、消費税の適切な転嫁が考慮されているか確認してほしい。

他校と比較して授業料が安価であるがアピールポイントではあるが、場合によっては授業料の見直しを視野に入れることも必要である。

(9) 法令等の順守

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	5	4	3	2
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5	4	3	2	1
C 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5	4	3	2	1
D 自己評価結果を公開しているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

A: 各種教育法令および設置基準は、各種ガイドラインに沿って適切に遵守運用されていると思われる。

B: 「文部科学省所轄事業分野における個人情報保護に関するガイドライン」に基づき、厳密に個人情報の保護に努めていると思われる。

とくに、虐待や家庭内暴力等が発生している事案においては、個人情報が漏洩しないよう、学校全体で慎重に情報共有され、
情報漏洩しないよう管理徹底されている点については、特に評価したい。

C: 今年度より、学校関係者評価・財務状況を公表するようになった点を評価したい。

公共性の高い教育機関として、学校評価の情報をオープンに公開することで、社会に対する説明責任を果たすことができる。

学校が積極的に組織や教育活動の内容を公開することより、保護者や地域社会からの信頼と連携に繋がり、教育活動の質の向上が見込まれる。

C: 昨年度の課題に対し、このコロナ禍の状況が、改善の幅を大きく阻む壁になられたのではと感じます。

そんな状況下においても改善に向けて前向きに様々な取り組みや体制の整備、教職員の増員されるなど、大いに努めていると感じる。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	5	4	3	2
B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	4	3	2	1
C 地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか	5	4	3	2	1

【意見・指導】

A・C: 生徒の振る舞いが原因の騒音や迷惑行為により、近隣住民から学校への苦情につながることもある。

生徒側に要因がある場合も多いが、世代・価値観の違う近隣住民との意識のギャップに起因する場合もあるようだ。

地域貢献活動や公開講座を通じて、学校活動を地域住民にってもらい、生徒と住民で相互にコミュニケーションを行うことで、両者が歩み寄り、近隣住民から教育活動に対するバイアス解消と、教育活動への理解を得ることを目指す。

また、生徒自身にも、この地域の一員である自覚を促し、マナー向上等プラスの影響につながることを期待される。

難しい取り組みと予想されるが、注力されることで得られる結果は大きいと感じる。

現状、コロナ禍において地域貢献活動やボランティア活動が行えない状況にあるが、この時間を有効的に活用して、地域に対して学校がどういう存在でありたいか、あるべきか、また、地域貢献により生徒にどのような影響をもたらすのか等をよく考え、準備したうえで、コロナ明けには、目的をはっきり示した状態で、学校全体で取り組めることが望ましい。